

2013年鳥取市議会2月定例会 「議員定数の削減をする条例改正案」反対討論 日本共産党 鳥取市議団（角谷議員）

私は、鳥取市議会の議員の定数を定める条例の一部改正について、反対をしますので理由を述べます。

今回の条例改正では、定数を4名削減して32名にするものであります。議員定数は「削減ありき」ですすめれば、当然議会や議員の役割の否定にもつながるもので、今日市政を含めた行政・政治に対する関心・要求は多様であり、議会に最大限反映するための定数はどの程度がいいのかという物差しで検討すべきです。

特別委員会では、3つの市議会への視察をおこない、報告書をまとめています。そのなかで、「どの議会とも市民との意見交換会も踏まえて議論している。公聴会・参考人質疑という方法を取り入れるなどして、市民との双方向、議論の公開による議会・議員のあり方についても意見を聞き、特に市民への説明は委員会としての一定の見解を持って、望む必要がある。前述の委員間討議なくして、説明責任は果たせない」とも述べています。

これらの検討事項に関して、今回の特別委員会が実施したアンケートと市民説明会が行われたことは、評価しないわけではありません。しかし、アンケートにあるように、「市民の意見が市議会に反映されていない」という問いに対して、わからない・不明が46%、「市議会を評価しますか」という問いに対して、わからない・不明が43%と、市議会の役割・存在意義が市民に十分知られていない現状があることです。やはり、私たちが市民のためにどんな議会活動や議員としての役割を果たしていくのかについてしっかりと議論をおこない、そのうえで必要な議員定数の規模を明確にする必要があります。2月の市民説明会でも、あらためてそのことが問われました。

また、議員の定数については、市民アンケートで定数削減を求める理由の多くが、「財政が大変である」「税収が少ないので、支出も少なくすべきだ」「類似都市を参考にして」というものでした。その点で財政問題と議員定数の削減については、委員会でも議論をおこない市民の受け止めとはちがうという認識となりました。しかし、「議員定数の削減で市民の意見が届かなくなる」という意見については、「議員定数の現状維持で解決できない問題であり、議員・議会の資質向上の問題であり議会活動を通じて、市民の意見把握や説明責任をどう果たしていくのか」という問題であると述べています。その議会活動について現状の問題点や改善策を議論もないなかで、削減を決めてしまうのは拙速であり、それこそ「活動しないなら減らすべき」「一生懸命活動してくれているなら、そのままいい、そうでないなら、減らすべき」という市民の声に対して説明ができません。

いま、少子・高齢化の時代のもとで、本市の広い行政面積や産業・文化など地域の特性を考慮した議員活動と議員定数が十分考慮されるべきであり、市民の声反映とともに行政のチェック機能を果たしていく必要があり、以上の点から定数削減に反対を表明し、討論とします。